

障がいのある人の雇用に取り組む



第一工業製薬

(京都市南区)

「京都はあとふる企業」です



【主な事業内容】界面活性剤等の各種工業用薬剤、健康食品等のライフサイエンス関連製品の製造・販売

【障がいのある方の主な仕事】 メンテナンス作業、事務作業、プログラミングなど



【新しい障がい者雇用チャレンジ】

2016年、多様性を認め合うことを通して、企業の活性化を目指す経営トップを含む委員会を設置しました。検討の結果、①「DKS チャレンジセンター」の設置による障がい者雇用の一元化、②SPIS(定着支援システム)を用いた支える側のマネジメント力向上、③個人の個性・強みを活かした職場配属の具体化を昨年度より進めています。

【新たな取り組みと目標】

これまでは、身体障がいや知的障がいの方を中心とした本社や各工場での清掃や植栽の剪定、散水等のメンテナンス作業を主に行っていました。発達障がいの方の集中力やIT分野などでの能力の高さに着目し、人材開発、人事管理、システムの各部門で業務を切り出し、昨年度に各自の特性と業務内容のマッチングを行い、発達障がいの方を1名ずつ配属しました。現在では各部門の大きな戦力として活躍しています。

発達障害の方には、コミュニケーションが苦手で集団になじみにくく、こだわりが強いなどの特性がありますので、SPISの活用による支援と特性の把握、特性に応じた具体的・視覚的な伝え方の工夫、手順やモデルの提示などの配慮を行っています。

以前は、障がい者と一般社員を分ける傾向がありましたが、この取り組みを通して垣根が低くなり、他の職場からの業務依頼も増えてきました。この取り組みが社員の意識改革と企業の活性化をもたらし、業界・地域 No.1 の障がい者雇用の実現と企業価値の向上に繋がることを目指しています。



【Aさんに聞きました】

大学では、なじめず自信がなく就活も止めました。一般枠ではつまずくと思いき、京都ジョブパークを経て入社し、3年目です。

採用や社員教育、研修の運営などの事務を担当しています。バタバタすることもあります。変化があり、自分に合っています。

アビリンピックの表計算に出場したこともあり、エクセルの業務での活用を考えています。

音楽鑑賞とグルメ巡り、ウインドーショッピングが趣味です。

【Bさんに聞きました】

まだ、1年目です。付き合いや会話が苦手でしたが、3年間の就労移行支援事業所での訓練で、自分だけではないことを知り、気持ちが楽になりました。

システム部門でプログラミングを3名で担当しています。情報技術は、企業の研究職の父から学びました。チームでの経験がないので、相談を意識的にしています。仕上がった時の達成感が高く楽しいです。

新しいことを学んで、役に立つものを作りたい。会社の中の単純作業を電子化・自動化していきたいと思っています。